

石西礁湖自然再生事業環境省事業実施計画（変更）の概要

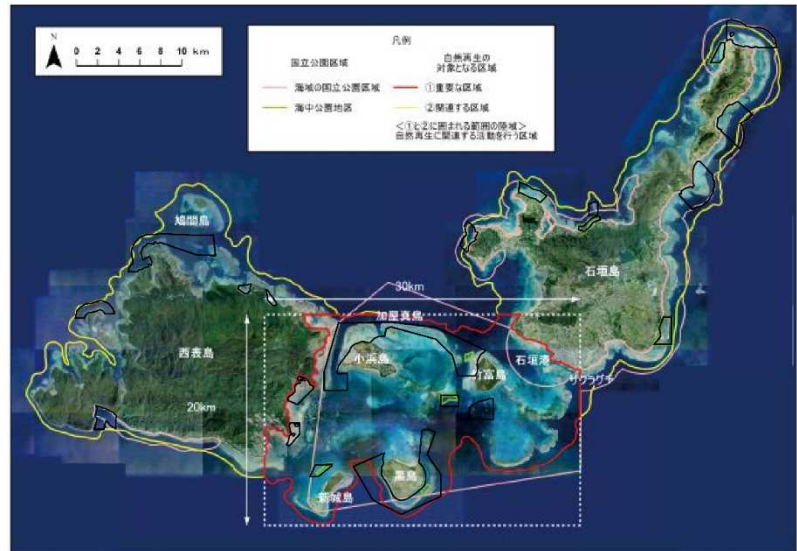
1 実施者及び協議会の名称

実施者：環境省九州地方環境事務所
 沖縄奄美自然環境事務所
 協議会：石西礁湖自然再生協議会

2 対象となる区域及びその内容

(1) 自然再生の対象となる区域

- ① 重要な区域：石西礁湖
 - ② 関連する区域：石垣島、西表島
 周辺海域
- 活動を行う区域は、上記①②の海域
 並びにその海域に囲まれる陸域



(2) 自然再生の実施内容

<概要>

サンゴ群集のモニタリング調査や修復事業、オニヒトデ駆除、赤土流出防止等の陸域負荷対策を実施している機関との連携、利用による負荷対策、環境教育や普及啓発の推進等に引き続き取り組むとともに、新たにサンゴの幼生供給量を増やす取組や幼生が着生しやすい基盤の整備等を図り、国立公園制定時の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻すことを目指す。

<目標・効果>

- ・サンゴ礁生態系の現状やその変動、攪乱要因の実態把握を通じた対策の実施と回復力の評価
- ・サンゴ幼生の供給源（供給量）を増やす基盤を整備するための手法の確立
- ・陸域負荷対策を促進するためのモニタリング結果の総合的な解析の実施と連携体制の構築
- ・サンゴ礁生態系保全に関する地域住民等の意識向上と具体的行動につながる広報啓発の促進

3. 計画書見直しのポイント

- サンゴ群集修復事業については、今後も起こる可能性がある大規模白化を念頭に、種苗移植を中心とした手法から転換し、礁湖内への幼生供給量を増やすための供給基地の整備に向け、そのための適地選定や導入する技術手法の検討を踏まえながら本格導入のための試行的な事業を行う。
- 陸域と海域が一体となった統合的な取組を進めるため、陸域由来の攪乱要因の調査を実施するとともに総合的な解析を実施し、結果を関係行政機関・関係団体と共有し各対策を支援する。
- サンゴ群集モニタリング調査については、より効率的な手法でよりの確に実態を把握するため、調査地点や頻度を見直し、栄養塩類の影響が現れやすい藻類や濁りの指標となる水平透明度などの項目を新たに加えて継続的に実施する。
- 自然再生の取組に関する地域住民や観光客の理解を促進するため、ウェブサイトや広報誌を通じて取組状況やモニタリング結果をわかりやすく広報啓発する。